	山高等専	門学校	開講年	度 令和03年度 (2		授	業科目「物理学 I B			
		一丁化		- スート スート	.021十/又/	צנן	本TIU M*±丁IU			
科目番号	CIHTIX	0006			科目区分		一般/選択			
授業形態		授業			単位の種別と単位	5米4	一般 / 選択			
開設学科					対象学年	L Q X	1			
開設期		後期	T		週時間数		2			
<u> </u>				SBN978-4-410-81103-	1. —	7) · ISF	BN978-4-410-81133-3			
担当教員	נאן	豊嶋剛		3DN370 + +10 01103	0、 网至(奴ण田加	κ) . 13ι	31370 4 410 01133 3			
<u> </u>	<u> </u>	32 700 173	<u>-, </u>							
1.力学的エ 計算に応用 2.運動量に	にネルギー(目ができる に関して、道 円運動に関 可の法則に関	重動量の概:	念を知り、力積が	が運動量の差であること。	と運動量保存則をす	理解し、	カ学的エネルギー保存則を理解し、物理量の 物理量の計算に応用ができる の関係を理解し、物理量の計算に応用ができる			
<u>ルーフ・</u>	<i>197</i>			標準的な到達レベルの目			未到達レベルの目安			
一一一	·//・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						(本到達レバスルの日女) 仕事と仕事率に関する計算ができない			
	ハルギー(1) スルギー(2)					<u>+ ス</u>	物体の運動エネルギーに関する計算ができない			
		·		物体の運動エネルギーに関する計算ができる			動力による位置エネルギーに関する計算ができます。			
力学的エネ	トルギー(3))		重力による位置エネルギーに関する計算ができ る			ない			
力学的エネ	ネルギー(4))		弾性力による位置エネルギーに関する計算がで きる			きない			
力学的エネ	ネルギー(5))		力学的エネルギー保存則について理解し、様々 な物理量の計算に利用できる			力学的エネルギー保存則について理解し、様々 な物理量の計算に利用できない			
運動量(1)				物体の質量と速度から運動量を求めることができる						
運動量(2)				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる						
運動量(3)				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる			運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できない			
単振動(1)				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる			周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求 めることができない			
単振動(2)				単振動における変位、速度、加速度、力の関係 を説明できる			単振動における変位、速度、加速度、力の関係 を説明できない			
円運動				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度 、向心力に関する計算ができる			等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度 、向心力に関する計算ができない			
万有引力(1)				万有引力の法則から物体間に働く万有引力を求 めることができる			万有引力の法則から物体間に働く万有引力を求 めることができない			
万有引力(:	2)			万有引力による位置エネルギーに関する計算が できる			万有引力による位置エネルギーに関する計算が できない			
力のモー>	メント			力のモーメントを求めることができる			力のモーメントを求めることができない			
角運動量				角運動量と角運動量保存則について理解し、具体的な例を挙げて説明できる			体的な例を挙げて説明できない			
剛体(1)				剛体における力の釣り合いに関する計算ができ る			剛体における力の釣り合いに関する計算ができ ない			
剛体(2)				剛体の重心に関する計算ができる			剛体の重心に関する計算ができない			
剛体(3)				簡単な形状に対する慣性モーメントと回転の運動方程式の関係を説明できる			簡単な形状に対する慣性モーメントと回転の運動方程式の関係を説明できない			
`	 別達目標項	 頁目との[関係	±カノフイ生エレレンノメン「ボで.硴明(CC.0		(AAV) 기보고 (VY CBUPU) (CC / GV V			
 教育方法										
概要	-	物理学を	を学ぶことは数3 なる、自然科学に	式を覚えるのではなく、F こおける様々な現象を物理	自然科学を理解して 理学が数学的に解釈	て工学/ 駅可能で	への応用ができる幅広い視野を身につけるため であることを、演習問題等を通じて理解を深め			
授業の進め	か方・方法	講義								
注意点		予習・ 授業計画	复習を行う際は、 画は、学生の理解	自分が理解できている。 解度に応じて変更する場	点、わからない点だ 合がある	が何なの	のかを整理する習慣をつけること			
授業の属	属性・履修	 多上の区分								
	ィブラーニ		□ ICT 利加	用	□ 遠隔授業対応	, ·	□ 実務経験のある教員による授業			
+™ ₩ ≘⊤≔										
授業計画 週 授業內容 週						調ブレ	ごとの到達目標			
					適ごとの到達自標					
	3rdQ	1週	力の表記法と	種類		抗力、張力、圧力について説明ができる				
後期		2週	力の釣り合い。	 と弾性		の法則を用いて弾性力の大きさを求めることが				
		3週	運動の法則			法則、作用反作用の法則について説明ができる				
	4週 力:		力学的エネル			仕事と仕事率に関する計算ができ				
		4.0	刀子のエインレー	+- (1)	物体の運動エネルギーに関する計算ができる					

		5週	力学的エネルギー(2)			重力や弾性力による位置エネルギーが計算できる 力学的エネルギー保存則を理解し、物理量の計算がで きる			
		6週	運動量	<u>=</u> 臣		運動量の定義と力積との関係を理解する 運動量保存則を理解し、物理量の計算ができる			
	7	7週	中間語	式験					
		8週	剛体(1)		剛体の定義を理解し、力の釣り合いに関する計算がで きる			
		9週	剛体(2)		剛体の重心に関する計算ができる			
		10週	カのヨ	Eーメント		カとカのモーメントの違いを理解し、力のモーメント の計算ができる			
		11週	円運動	协(1)		等速円運動における諸量の表記法を理解する			
		12週	円運動	协(2)		物体の速度、角速度、加速度、遠心力と向心力に関す る計算ができる			
4	thQ	13週	単振重	助		周期や振動数などの単振動を る 単振動における変位、速度、 できる			
		14週	万有	引力		万有引力の法則を理解し、物体間に働く万有引力や位 置エネルギーの計算ができる			
		15週	期末試験						
		16週	答案证	区却、解説、 2	アンケート				
モデルコス	アカリキ	ユラムの)学習	内容と到達	目標				
分類	分類 分野			学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
				速度と加速度の概念を説明できる。		3	後3,後6,後 7,後15		
					直線および平面運動において、2物位めることができる。	本の相対速度、合成速度を求	3	後3,後6,後 7,後15	

セテルコアカリキュラムの字音 分類 分野		学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	後3,後6,後 7,後15
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	後3,後6,後 7,後15
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	後3,後6,後 7,後15
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	後3,後6,後 7,後15
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	後3,後6,後 7,後15
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	後3,後6,後 7,後15
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計 算ができる。	3	後3,後7,後 15
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計 算ができる。	3	後3,後7,後 15
				物体に作用する力を図示することができる。	3	後1,後3,後 6,後7,後15
				力の合成と分解をすることができる。	3	後1,後3,後 6,後7,後15
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	後1,後3,後 6,後7,後15
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	後2,後3,後 7,後15
基礎的能力				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	後2,後3,後 6,後7,後15
至呢。1607				慣性の法則について説明できる。	3	後3,後7,後 15
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	後3,後7,後 15
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	後3,後7,後 15
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値 問題として解くことができる。	3	後3,後7,後 15
				運動の法則について説明できる。	3	後3,後7,後 15
				静止摩擦力がはたらいている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	後3,後7,後 15
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	後3,後7,後 15
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	後3,後7,後 15
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	後4,後7,後 15
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	後4,後7,後 15
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後5,後7,後 15
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後5,後7,後 15
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	後5,後7,後 15

		物体の質量と速度な	いら運動量を求めることができる。		3	後6,後7,後 15			
		運動量の差が力積にができる。	こ等しいことを利用して、様々な物理	量の計算	3	後6,後7,後 15			
		運動量保存則を様々	な物理量の計算に利用できる。		3	後6,後7,後 15			
	周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。				3	後13,後15			
	単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。					後13,後15			
	等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する 計算ができる。					後11,後 12,後15			
	万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることがきる.			ことがで	3	後14,後15			
	万有引力による位置エネルギーに				3	後14,後15			
		力のモーメントを求めることができる。			3	後10,後15			
			力のつり合いに関する計算ができる。			後8,後15			
		重心に関する計算な	ができる。		3	後9,後15			
評価割合									
	試験		レポート	合計					
総合評価割合	80		20 100		·				
基礎的能力	80		20	100					
専門的能力	0		0 0						